

クリエイトニュース

第10号 2008年6月
山形県東根市中央一丁目5番1号
タントクルセンター内

発行 NPO法人クリエイトひがしね www.higashine.org TEL/FAX0237-43-0732

第5回通常総会開かれる

去る5月14日（水）、第5回通常総会が視聴覚室で開かれました。総会に先立ち、東根市から青柳子育て健康課長が挨拶に見えられ、「ミリオンフェスティバル」などこれまでの活動に対するお礼が述べられました。



総会は理事長あいさつに続き、各部会の一年間の活動が報告と新年度の活動案が討議されました。

来館者百万人達成をなしとげた昨年度は、クリエイトひがしねと子育て健康課による実行委員会を結成しフェスティバルを盛り上げましたが、今年度は5周年に向けてのさらなる前進を確認しました。

4年目にあたって

NPO法人クリエイトひがしね
理事長 菊地 和博

東北芸術工科大学には「子ども芸術大学」があります。そこに勤務する山形市在住の保育士さんは6歳と3歳になる子どもをもつお母さんです。ついこのあいだ、仕事の打ち合わせをしたあとで、その保育士さんは私が「クリエイトひがしね」の関係者とわかると、次のようなお話をしてくれました。

「いつもお母さんどうしが一緒になって“今日はどこに遊びに連れて行こうか”という話になると、なにかと東根市のタントクルセンターが話題にのぼるんです。そして、結局“また行きましょうー!”ということになって、山形市から子どもたちを車に乗せてタントクルセンターに行ってしまうんです。これまで何度かお邪魔しましたよ。」

このことを聞いた私はたちまちうれしくなり、あらためてタントクルセンターの役割の大きさを思いました。そして、「クリエイトひがしね」の職員・企画員のみなさんの日頃の努力や創意工夫のすばらしさを思い浮かべました。そう思った私にさらに次のようなことも言うてくれました。「スタッフの方

々の対応も丁寧で親切ですよ。感じの良い方々が多いですねー。」

この言葉を聞いた私は、さらに感動してしまったことは言うまでもありません。そして、このことを是非みなさんにお伝えしたいと思ったのです。

「クリエイトひがしね」のみなさん、市外のお母さん方からもこのようなありがたい評価をいただいていることをしっかり受け止め、どうぞいっそうの自信をもってセンターの職務や部会等事業に励んでいただきたいと思います。

最後になりますが、五月の総会でも申し上げましたように、「クリエイトひがしね」発足四年目にあたり、センター職員の年休制度の導入を試みます。また、NPOに所属する企画員全員が心を一つにできる取り組みや、高齢者に配慮した事業などを中期・短期的目標として設定したいと考えております。

「クリエイトひがしね」は日々進化し続けます。どうぞこれからもご支援とご協力をお願い申し上げます。

新緑の中大森山ハイキング

今回で四回目となった恒例の大森山ハイキング。新緑がとても美しく、道端にはヒトリスズカ、ニリンソウが群生し、総勢22名の仲間を優しく迎えてくれました。

10時15分に体育館を出発し、サークル「しゃぼん玉」の皆さんのリードで、頂上に着くまでクイズに答えながら難問突破！「大森山公園の中にテニスコートは何面ある？」の問題に親子で大きな声で数えました。「磨崖仏の上段に彫られている仏像は何如来？」「五智如来」とさらに大きな声。風の強い薄曇の天候でしたが、一時間ほどで頂上に到着。「大声大会」に子どもたちは大ハッスル。帰りはゆっくりと下の公園にもどりオイルフォンデュを楽しみ、疲れもふっとびました。（佐藤孝子）



ふるさと小さな旅



第二回小さな旅が新緑の5月21日開催されました。コースは神町、大富、小田島、長瀬で、大森工業団地の街路樹をNP0の奥山さん、大富のイバトミヨ、石仏を地元から参加の植松さん、小田島・長瀬のお寺さんを長瀬出身の吉田さんと、これ以上は望めない名ガイドの説明で、ふるさと東根のかくれた魅力を知ることができました。

参加者は直前に加わった方を含む24名。神町の大日尊、若木山登山、マイクロバスを降りたり乗ったりの繰り返しでしたが、適度な運動と知的刺激を受け、心地よい刺激の一日でした。（村田民雄）

麴を使った料理教室

地元特産の麴を使った料理教室は、講師の斎藤文四郎さんの日程がやっと取れて、3月27日の開催となりました。市報に掲載されて僅か4日間で定員いっぱいになるという人気教室です。

まず、麴料理の基本編で煮る、焼く、揚げる、蒸すを学び、六田の麴は水に戻したものを初めから入れることや、麴をパン粉代わりにおろして使うなど、目からウロコがポロリ。講師の軽妙なトークも人気の一因であって、アンケートには次回も是非参加したいとの希望が多く寄せられました。（佐藤万記子）



第4期「源氏物語」講座開講

4年目を迎えたタントクル古典講座「源氏物語を読もう」の開講式と第一回講座が5月7日に行われました。年々受講希望者が増え、今期は60名を越す大所帯となりました。大場玲子先生の楽しい講義を一年間10回にわたって受けることになります。

受講者にとって、忙しい毎日の中で力をぬいて安らぐことの出来る時間であり、心の中に余裕を育てることの出来るのが魅力のひとつのようで、自分に返れる時間と空間があることは、大きな意味があると思います。今年は「源氏物語千年紀」にあたる記念すべき年、担当者ふたりで今年も頑張ります。（吉田和子）



平成20年度の 組織と事業計画

理事長 菊地 和博
副理事長 伊勢 博
統括理事 丹野 久江
事務局長 佐藤万記子（まちづくり部会長）
理事 村田 民雄（芸術文化・情報部会長）
理事 佐々木美津代（子育て健康部会長）
監事 奥山 笑子

まちづくり部会

五十嵐理恵 武田 忠史
奥山 博志 長瀬 京子
齋藤 千里 深瀬 豊春
佐藤 恭子 結城 栄子
佐藤 孝子 吉田七百子
菅野 優

芸術文化・情報部会

奥山 恒雄 武田 静子
小濱 友子 武田千佳子
小松 文子 横尾 永孝
齋藤文四郎 吉田 和子
柴田みどり 渡部貴代美
高橋 京子

けやきジュニア合唱

長谷川宣政

子育て健康部会

石山 聖子 佐藤千恵子
石山 千晶 鈴木 茂子
大乘美恵子 須藤 真美
奥山 奥子 関 文子
奥山貴代子 高桑 秀
奥山 明美 名和フジ子
奥山 美和 村山 恵子
小澤 久枝 山口しづ子
小林 順子

主な事業計画

ふるさと小さな旅
大森山ハイキング
写真展
麩料理教室応用編
六田宿紅花播種協力
まゆはきコンサート後援
花畑起工式後援

第4期源氏物語講座
ふるさと小さな旅
市民映画会
ホームページ講座
文化講座
会報編集・発行

大森山ハイキング
双子ちゃんの集い
移動子育てサロン
食育講座
ファミリー運動会
生涯学習フェスタ

タントクル市民映画会



巨匠・山田洋次監督が
吉永小百合主演で描く
激動の昭和
日本はもう、
この「母」を
忘れている―

何もなくとも、母の手があつた。
悲しくとも、母の胸があつた。

2008年
7月20日(日)

上映時間 ①午前10時～
②午後1時30分～

さくらんぼタントクルセンター

前売券 1000円 (当日1200円)

主催 NPO法人クリエイティブがしね
東根市老人クラブ連合会
東根映画センター

前売券取扱 タントクルセンター受付
老人クラブ連合会 あすなろ書店

事務局より

事務局には受付などを通じて、利用者からのたくさん要望が届いています。例えば、「アイスクリームがあればいい」「昼食を販売してほしい」「スタッフの弁当を頼んでもらいたい」「イベントの看板・横幕・垂幕などを頼んでほしい」等等。

私たちはこれまで、「施設が汚れる」「受託事業外の仕事が増える」という立場で、来館者・利用者のわがままと冷ややかに対処してきました。しかし、月一休館、年末年始の開館、8時30分開館・10時閉館というセンターの運営はすべて利用者の立場を考えて決められており、運営側の都合で利用者の要望を切り捨てていいのかという反省が残ります。

先の理事会でこのことが議題になり、これらの要望を前向きに捉え、利用者の利便と職員の負担のバランスをどう解決すべきかを話し合いました。

この問題をどうクリアするか、そのヒントを得るために理事会で先日河北町のどんがホールを視察してきました。その結果、自販機の導入や、窓口の業務として受け入れることが出来れば、かなりの範囲で利用者の要望に応えられる確信を得ることが出来ました。担当スタッフには若干の負担を強いることになりますが、「利用者本位の発想」をモットーに市の関係課と相談しながら、利用者の声に応えていきたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願いします。

企画員・賛助会員募集

□企画部員

企画から実施まで一緒に活動していただける
NPOに興味をお持ちの方。

年会費 6000円

□賛助会員

NPOに理解をいただき側面から金銭的に応援していただける方。

一口年間 5000円

編集後記

◆「母べえ」の上映会が動き出しました。この映画会の成功が今年の活動に大きなはずみをつけます。その成功の鍵は皆さん一人ひとりの小さな積み重ねにかかっています。よろしくお願いします。

◆理事長に原稿を依頼したとき、誰に向けて書けばいいのかと問われ、改めて会報の役割を考えました。

◆会報は会員に向けての情報誌ですが、会の方向性を確認しながら会員の心をひとつにしその活動を記録する、会員外にも活動の様子を伝え理解していただく等、多くの役割を担っています。

◆開館以来三年間、市外、県外から注目をされ続けてきたタントクルセンター。その多くが私たちスタッフの献身的な努力によるものであることを自覚しながら、さらにクリエイティブな一年にしたいものです。